

事務事業名	移動図書館・拠点配本実施事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
施策名	21	生涯学習の推進				所属係	図書館班	課長名	野本 立一
基本事業名	78	学習やスポーツへの参加機会の提供				担当者名	坂本 香織	電話番号 (内線)	096-242-5555
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 08	事業	法令根拠	図書館法第3条(図書館奉仕) 合志市立図書館条例第5条		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 8 年度 ~) (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 図書館を利用できない遠隔地利用者や図書館に来る困難な利用者(特に園児や小学生、乳幼児の保護者、高齢者等)が図書館サービスを享受できるよう事業を実施する (業務の内容) 移動図書館車を運行し、巡回先にて蔵書の貸出・返却を行う。 点配本先に定期的に100冊~200冊の蔵書を配本し、利用者に読んでもらう。 (予算の内訳) 報酬(非常勤職員の手当)、需用費(燃料費)に支出される						総 投 入 量 事業費 財源内訳 人件費	国庫支出金		
							都道府県支出金		
							地方債		
							その他		
							一般財源		
事業費計(A)	0								
正規職員従事人数									
延べ業務時間									
人件費計(B)	0								
トータルコスト(A)+(B)	0								

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

○移動図書館車 旧西合志町内の巡回先地点を月に1回巡回し、蔵書の貸出・返却を行った ○拠点配本 旧合志町の8箇所の配本先へ月1回と月2回の配本を行った。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

平成18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

移動図書館等利用者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

図書館遠隔地の利用者にも、図書館サービスを利用してもらう

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

学習やスポーツへの参加機会の提供

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 巡回・配本拠点	箇所
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 移動図書館等利用者数	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 移動図書館等貸出件数	点
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 学習やスポーツに親しむ機会があると思う市民の割合	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円		1,256	1,295	1,295	1,295	1,295	
			事業費計 (A)	千円	0	0	1,256	1,295	1,295	1,295	1,295
	人件費		正規職員従事人数	人			3	3	3	3	3
			延べ業務時間	時間			300	300	300	300	300
			人件費計 (B)	千円	0	0	1,191	1,191	1,191	1,191	1,191
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	2,447	2,486	2,486	2,486	2,486
活動指標			箇所			38	38	38	38	38	
			人			4,289	4,500	4,500	4,500	4,500	
対象指標			点			26,236	28,000	28,000	28,000	28,000	
			%								
上位成果指標											

事務事業名	移動図書館・拠点配本実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

○移動図書館 図書館遠隔地の利用者が図書館サービスを受けられるように、平成9年2月頃より開始した。
 点配本 図書館遠隔地の利用者が図書館サービスを受けられるように、平成12年7月頃より開始した。

○拠

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

移動図書館については、ほとんど利用が無い巡回先と利用のある巡回先とに分かれている。合併前は自治体内の遠隔地の大半をカバーしていたが、合併後は巡回していない旧合志町の地域を合わせると自治体内の遠隔地の半分しかカバーしていない形になっている。ただし後者に関しては、拠点配本により、多くをカバーする形になっている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

移動図書館に関しては、巡回が非常に助かるという意見が寄せられている。拠点配本についても指定された場所に、常時本を置いているので、利用したいときにいつでも利用できるのでは助かるという意見が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 まさに学習やスポーツへの参加機会の提供といえるため
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 図書館遠隔地におり、なかなか図書館へ足を運べない市民へも、図書館サービスを提供することは、偏りなく市民へ同じサービスを提供する平等性に合っているから。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 この業務は、図書館遠隔地利用者や図書館へ来ることが困難な利用者へサービスを提供することが第一であるため。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 移動図書館に関して、巡回先の見直しと巡回スケジュールの再設定により向上が期待できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 多くの図書館遠隔地の利用者が図書館サービスを利用できなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の目的(意図・対象)をもつ事業が他にない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 拠点配本車・移動図書館車の燃料費等であるため削減することは難しい
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 移動図書館も拠点配本もほとんど非常勤職員が業務を担っているため。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 市民全員に提供できるものであるため。

合志市

事務事業名	移動図書館・拠点配本実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

移動図書館に関して、巡回先の見直しと巡回スケジュールの再設定により向上が期待できる

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

移動図書館に関して、巡回先の見直しと巡回スケジュールの再設定を検討していく

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

移動図書館に関して、各巡回先での利用者数の調査を行うことで、巡回先と巡回スケジュールの見直しを図る

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項